



厚真町



2017年6月23日
厚 真 町
公益財団法人イオン環境財団

美しい水と豊かな生き物を育む森の再生3年計画最終年
7 / 1 (土) 第3回「北海道 ^{あつまちょう}厚真町植樹」開催
600名のボランティアの皆さまと5,600本の木を植えます

北海道勇払郡厚真町（町長 宮坂尚市朗）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は7月1日（土）、第3回「北海道 厚真町 植樹」を実施します。

北海道南部に位置する厚真町は、町内の7割に森林が広がる緑豊かな町であり、中央部を流れる厚真川を中心に美しい田園風景が広がっています。豊穡な土地には、米や野菜などさまざまな農作物が育ち、中でもハスカップの栽培面積は日本一を誇ります。

一方で、植樹地である厚真川上流部周辺にあるレジャー施設の跡地は、表土が荒れ、水資源を蓄え生物を育む土壌の水源涵養機能が低下しています。このため、厚真町の基幹産業である農業に対する影響が懸念されるほか、土砂の流出や河川氾濫の危険性も高まり、防災上の観点からも早期に対応することが必要となっています。

厚真町とイオン環境財団は、産業や暮らしを支えるこれらの森の再生を目指して、2015年より3年計画で植樹活動をスタートしました。過去2年間で、1,150名のボランティアの皆さまとともに11,400本を植樹しました。最終年となる本年は、600名の皆さまと5,600本を植え、3年間の累計は17,000本となります。

両者は今後も、豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時：2017年7月1日（土）10:00～11:30
場 所：北海道^{ゆうふつぐんあつまちょうたかおか}勇払郡厚真町高丘177-1他
参加者：600名
樹 種：ヤチダモ、ヤマハンノキ、ドロノキ、ハルニレ、アカエゾマツ、アキグミ、ギンドロなど
本 数：5,600本
面 積：2.9ha
主 催：厚真町、公益財団法人イオン環境財団
協 力：北海道^{いぶり}胆振総合振興局、イオン北海道株式会社、マックスバリュ北海道株式会社
出席者：北海道厚真町 町長 宮坂 尚市朗 様
（予定）北海道胆振総合振興局 局長 本間 研一 様
公益財団法人イオン環境財団 理事長（イオン株式会社名誉会長相談役） 岡田 卓也
イオン北海道株式会社 代表取締役社長 星野 三郎
マックスバリュ北海道株式会社 代表取締役社長 出戸 信成

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、世界各地での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は、1991年のスタートから数え、2016年度までの累計植樹本数が1,144万本を超えました。

▶公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

【北海道での活動】

■2002年～2006年 知床植樹

北海道斜里郡斜里町は1977年、乱開発の危機にさらされていた知床の開拓跡地を買い取り、植樹して緑を回復させることを目標に「しれとこ100平方メートル運動」を全国に呼びかけてきました。当財団はこの運動に賛同し、2002年から2006年までの5年間で、のべ1,610名の皆さまと累計9,003本を植樹しました。また2004年には、かつて知床の原生林に数多く生息し、現在絶滅の危惧にあるシマフクロウが棲む森を再生するために、イオンがクリスマスラッピングキャンペーン「シマフクロウに森を返そう！」募金キャンペーンを実施し、お客さまからの募金と当財団からの1,000万円の拠出をあわせた総額1,920万8,134円を財団法人知床財団に贈呈しました。2005年には「世界自然遺産 知床の森をまもろう！」キャンペーンでお預かりしたお客さまからの募金に当財団からの1,000万円の拠出をあわせ、総額2,187万1,917円を斜里町知床国立公園内森林保全基金に贈呈しました。

■2007年～2011年 支笏湖植樹

2004年9月8日、日本海沿岸を北上した台風18号は、北海道を暴風域に巻き込み、道内各地の森をなぎ倒しました。国有林が多くを占める樽前山麓の森林被害は、平坦林で火山灰地という土地柄もあって道内最大規模となりました。この地を命はぐくむ森に再生すべく、5年間で、のべ5,203名の皆さまと累計39,600本を植樹しました。

また、2008年6月には、G8北海道洞爺湖サミットと並行して開催されたユースイベント「J8サミット」に参加する子どもたちと「イオンチアーズクラブ」のメンバーの合計約100名が植樹活動を実施しました。

■2012年～2014年 むかわ町植樹

森林が約8割を占めるむかわ町は、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり、森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいることから、「魚つきの森を守ろう」というコンセプトのもと、森を守ること、川を守り、そして海を守るべく、3年間で、のべ1,735名の皆さまと累計16,000本を植樹しました。

■「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform: ASEP)」

当財団はグローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的に、2012年から毎年、大学生を対象とした環境教育活動「アジア学生交流環境フォーラム」を開催しており、これまでに7カ国375名が参加しました。2016年は「生物多様性と叡智」をテーマに8月3日から8日まで日本で実施し、カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの大学生84名が、ユネスコ世界遺産の知床半島で、野生動植物の観察や、北海道標茶町虹別での植樹活動などのフィールドワークを通じて、自然との共生について学習しました。

